

1. 佐世保市上下水道事業経営検討委員会の委員の中には、石木ダム関連工事の入札に何度も参加している建設会社社長が入っているが、そのような委員で構成された委員会が第三者委員会として認められるのか？p.1の質問1に関する補足としてお伝えしたい。

添付資料 ①佐世保市上下水道事業経営検討委員会名簿

②石木ダム付替え県道工事入札情報

資料①に出てくる増田貴光氏は佐世保市白岳町に本社がある福丸建設の社長である。

資料②で分かるように、2018年11月12日から現在までに、石木ダム付替え県道工事の入札に8回参加している。このような人物が石木ダムの必要性を検討する再評価の委員として相応しいと言えるのか？

佐世保市水道局は、石木ダム再評価にあたって同委員会に諮問した理由をこう述べている。この再評価の実施にあたっては、学識経験者等の第三者からの意見を聴取することとされており、ことさらに「上下水道ビジョンその他水道事業及び下水道事業に係る各種計画等の策定等に関する事」を検討するために設置している「佐世保市上下水道事業経営検討委員会」に対し、諮問し、審議を行うこととなりました。

<https://www.city.sasebo.lg.jp/suidokyoku/suigen/r1saihyouka.html>

増田氏は石木ダム事業の第三者と言えるのだろうか？

石木ダム促進市民の会の役員や石木ダム関連工事を請け負いたいと手をあげる会社社長らで審議する再評価が、公正なものと言えるのだろうか？国の見解を聞きたい。

2. 水需要の実績と予測について p.3の質問6に関連して市民の意識を伝えたい。

添付資料 ③水の安定供給への満足度：佐世保市まちづくり市民意識アンケート調査報告書 2018 より

同調査は、佐世保市が2～3年に1回5月頃おこなっているもので、その結果報告が7月頃出される。直近の2018年の資料を添付する。市内在住の満16歳以上の市民3,500人（地区別無作為抽出）が無作為に抽出され、郵送式自記入アンケートで、信頼性は高いと感じる。

③の資料でわかるように、まちづくりに大切な各分野（医療、防災、雇用、公共交通、福祉等々）の中で、「水の安定供給」という項目があり、その満足度は35.7%で、37分野中第4位という高さである。そのグラフには前回（2016年）の満足度も33.7%と記されているが、この時は第5位であった。このような高い満足度は、佐世保市民が水に困っていない、水需要は満たされているという証である。それは佐世保市自身が一番分かっているはず。

p.11の渇水被害にも関連するが、数百億円に上る渇水被害が毎年起こるなど全くあり得ない話で、この資料を目にした市民は皆大笑いしていた。まさに机上の空論であり、その

大元は、この捏造された水需要予測のせいである。

3. 負荷率について

p.5・6の「ハウステンボス、大口造船企業の一最大給水量を別途見て加算する」やり方が水道施設設計指針(2012年度版)での計算方法と異なるという指摘に関連で…

もし市水道局の今回の計算方法を万一認めるとしても、その際には負荷率の計算は、ハウステンボス+大口造船企業の一最大給水量を求めるために別の負荷率を使用すると(日ごとの使用量(給水量)の変化が生活用水などより激しいので低い負荷率を示すはずなので)それ以外の部分(生活用水など)の一最大給水量や負荷率を新たに計算しなおさなければならないはずです。にもかかわらず、市水道局は元のままの負荷率を用いており、これでは二重カウントになると思います。

まして、過去10年でなく、過去20年間で記録された異常値を除外した最低値を計画負荷率として採用しているので、一日最大給水量はますます過大に設定されることになりま

す。
市の手法を認めるなら、元の20年間の各年の負荷率を計算しなおすべきではないでしょうか?